

【項目】

- ①意識 ②発声 ③咳 ④舌の筋力 ⑤嚥下 ⑥トロミ水テスト(再テストあり)
⑦ゼリーテスト(再テストあり) ⑧水テスト

【必要な道具】

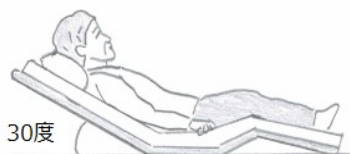
水で湿らせて軽く絞ったガーゼ1枚、3mlのトロミ水(冷水、ハチミツ状程度)×3回分、冷水30ml程度(コップ)、ゼリー(1回4gを3回分:離水しにくいものが好ましい)、水で濡らして軽く絞った綿棒やアイス棒など、スプーン、舌圧子、ストップウォッチ
必要に応じて、シリンジ、吸引器

【中止基準】

⑤嚥下において0点の場合であり、かつ①意識が0点の場合⑥⑦⑧は行わない。
※①意識が0点または5点、かつ⑤嚥下において0点または10点の場合に⑥⑦⑧を行う際には吸引器を準備する等、誤嚥時の配慮を行う。

【評価時の姿勢】

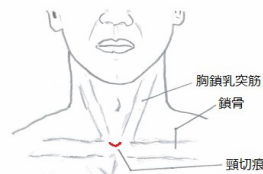
全身状態や頸部の安定の状態に合わせて行う。椅子座位または車椅子座位の姿勢が望ましい。頸部前屈位の姿勢をとる。
ベット上で行う場合は、できるだけギャッジアップを高くする方が望ましいが、被験者が楽な姿勢となるように配慮する。
項目⑥と⑦の各項目が満点にならない場合は、リクライニング30度(または45度～60度)頸部前屈位(枕を高くするなど)で再度評価し、最も良い評価の方を点数として加算する。その際に、行った姿勢を記載しておく。



リクライニング30度頸部前屈位の姿勢

【項目の詳細】

- ①意識: 呼びかけを行う。
判定: 10点 意識清明
5点 呼びかけに開眼、または発声がみられる
0点 開眼も発声も得られない
- ②発声: 『アーとできるだけ長く言ってください』と指示する。
判定: 10点 「アー」の発声が10秒以上可能。
6点 「アー」の発声はできるが、6秒以上10秒未満。
3点 「アー」の発声はできるが、3秒以上6秒未満。
0点 「アー」の発声ができない、またはできて3秒未満。
※随意的に「アー」の発声ができない場合は0点
- ③咳: 『痰を出すように強く咳をしてください』と指示する。従命できない場合は、気管圧迫法を行う。
判定: 10点 痰が出せる程度の随意的な咳ができる
5点 痰は出せないが、随意的な弱い咳ができる
3点 気管圧迫法で咳が出る
0点 全く咳が出ない
※気管圧迫法は頸切痕の直上の気管を拇指などで軽く圧迫し、咳を誘発する方法。状況に応じて実施する。



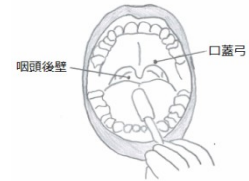
④舌の筋力:舌圧子を使用し、舌の突出・側方時の筋力を評価する。

- 判定:10点 異常なし
8点 わずかに低下、持続が困難
5点 明らかに片側性に低下
0点 著しく減弱、または評価困難

⑤嚥下:濡れたガーゼなどで口腔内を濡らした後、『ゴクンして下さい』と指示する。

嚥下ができない場合は、水で濡らして軽く絞った綿棒などで奥舌・口蓋弓・咽頭後壁周辺に触れ、嚥下が起こるかを確認する。

- 判定:20点 10秒以内に随意嚥下ができる
10点 綿棒などで口蓋弓・咽頭後壁に触れた後に嚥下が起こる
0点 嚥下が起こらない、または評価困難



※嚥下の確認は、喉仏の挙上を確認する。

喉仏がわかりにくい場合は、喉仏にふれ、触診を行う。

⑥トロミ水テスト:スプーンにのせた3mlのトロミ水(ハチミツ状)を口腔に入れ、『ゴクンして下さい』と指示する。嚥下を確認し、「アー」と言ってもらう。

3回実施し、最も悪い評価を記載する。

※開口障害がある場合は、シリンジを使用する(口腔底に入れる)

- 判定:10点 むせなく嚥下ができ、嚥下後に咽頭ゴロ音がない
5点 嚥下後に咽頭ゴロ音があるが、むせて対処ができる ※1
2点 嚥下後に咽頭ゴロ音があり、むせても対処できない
0点 嚥下できない、口腔内に貯め込む、または評価困難

⑦ゼリーテスト:4gのゼリーを口腔内に入れ、『ゴクンして下さい』と指示する。嚥下を確認し、「アー」と言ってもらう。

3回実施し、最も悪い評価を記載する。

- 判定:10点 むせなく嚥下ができ、嚥下後に咽頭ゴロ音がない
5点 嚥下後に咽頭ゴロ音があるが、むせて対処ができる ※1
2点 嚥下後に咽頭ゴロ音があり、むせても対処できない
0点 嚥下できない、口腔内に食物が多量に残る、または評価困難
※項目⑤で0点かつ⑥トロミ水テストで3点以下は実施せず0点とする

⑧水テスト:コップに入れた水(30ml程度)を『いつものように飲んで下さい』と指示する。飲み終わったら「アー」と言ってもらう。1回実施し、評価を記載する。

- 判定:20点 むせなく嚥下ができ、嚥下後に咽頭ゴロ音がない
10点 嚥下後に咽頭ゴロ音があるが、むせて対処ができる ※1
または、一気に飲めないがゆっくり調整して飲むことができる
2点 嚥下後に咽頭ゴロ音があり、むせても対処できない
0点 嚥下できない、または評価困難

※項目⑥トロミ水テストで5点以下は実施せず0点とする。また、①～⑦の評価において、誤嚥のリスクが高いと判断した場合は⑧の評価は中止する。

※1 対処とは、再度嚥下して咽頭ゴロ音(喉のあたりがゴロゴロ音がする、または嚥下後にアーと発声した時に湿声となる)がなくなること

重症度カットオフ値		
異常なし	77 - 100	食事開始推奨(常食)
軽度	62 - 76	食事開始推奨(水分のみトロミ)
中等度	16 - 61	調整食・姿勢調整で食事開始推奨
重度	≤ 15	食事開始は勧められない 少量の摂取

(産業医科大学雑誌第41巻第3号より引用・改変)